新しい桂浜公園の提案

社会システム工学科
1100396　　小松 愛実

1. はじめに

1-1. 背景

桂浜は高知県の代表的な観光地として知られている。月の名所として名高い桂浜は、龍頭岬と龍王岬の間に弓状に広がる砂浜である。裏山には浦戸城趾があり、戦国の昔、長宗我部元親の居城として四国統一の中心となった場所だ。桂浜の龍頭岬には坂本龍馬像があり、全国の龍馬ファンが訪れる。他にも桂浜公園には、桂浜水族館、土佐闘犬センターなどがある。また、山頂には坂本龍馬記念館、国民宿舎「桂浜荘」が建つ。

また、桂浜公園は「日本の歴史公園 100 選」にも選ばれている素晴らしい観光地でもある。桂浜公園全体に歴史の史跡が数多く残されている。

桂浜公園の魅力は、公園全体に広がる遊歩道に詰まっている。自然に囲まれた遊歩道に沿って歴史の史跡があり、この遊歩道を通って龍馬記念館へ行くこともできる。

1-2. 桂浜公園の現状

・観光スポットがバラバラに位置している
・シャッターの閉まっている店舗が多い
・ほとんど使われていないイベントスペース
・桂浜から離れているバス停
・観光客の姿がほとんどいない東の海岸
・高知県民の来場数の少なさ
・観光客の滞在時間の短さ

2. 目的

・バラバラに位置した観光スポットをつなぐ
・長時間滞在できる
・地元の県民が普段訪れる

これらの３つを軸として設計を進めていく。

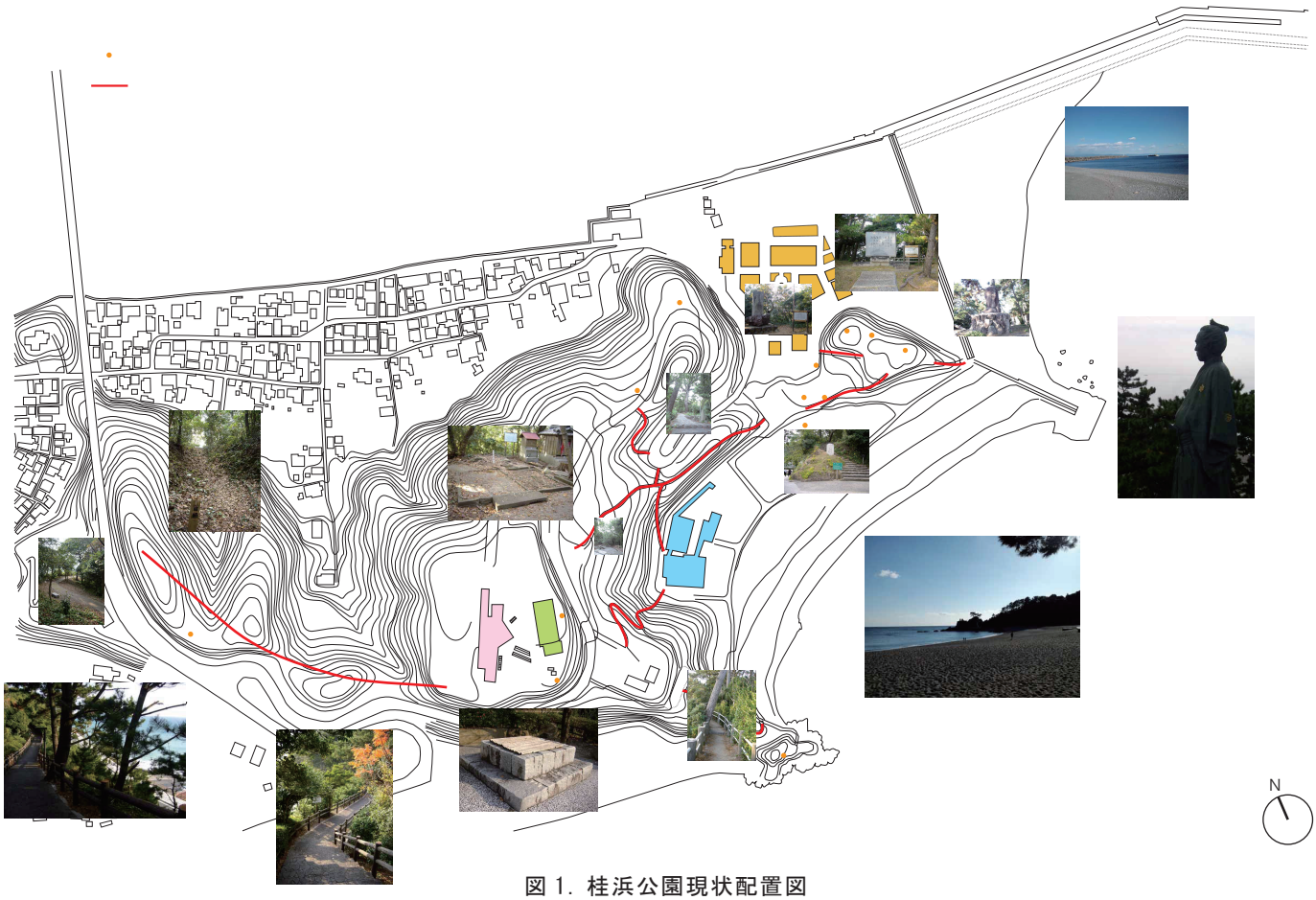

図 1. 桂浜公園現状配置図

3. 全体計画

3-1. 設計趣旨

「ここは建物？公園？」

「２階？３階？」

「中？外？」

「カフェ？市場？」

このような明確でない、むしろ曖昧な空間にこそ何か新しいものが生まれるのではないだろうか。

「道」は曖昧なものだ。どんな場所にもあり、明確な形はない。その「道」を集めて新しい空間を作った。曖昧さによって建物全体が一つの空間として機能する。するとこれに伴って桂浜公園全体も１つの空間として機能する。

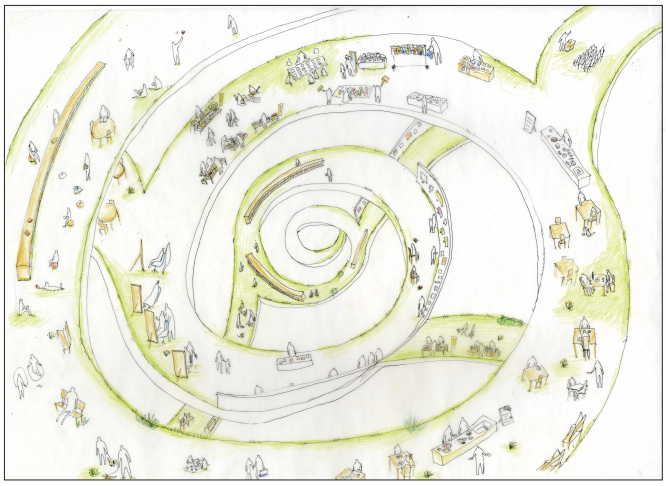

図 2. イメージパース

3-2. 全体計画の提案

1）平面計画

対象敷地に集まる県道３５号線、桂浜への動線、龍馬像への動線の３つの動線と、東の海岸への動線から、４方向へ伸びる形のベースができる。

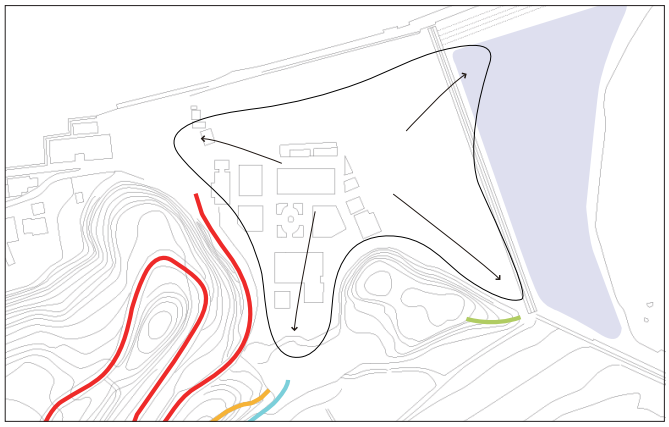

図 3. 対象敷地動線計画

2）断面計画

現在の建物は上下を階段で結び、上下のつながりがあまりにない。しかし、この階段をスロープにすることによって上下をゆるやかに繋ぐことができ、１階と３階もスムーズに繋ぐことができる。スロープにすることによって上下を繋ぐ部分も店舗として機能することができ、空間全体を１つの空間として利用することができる。

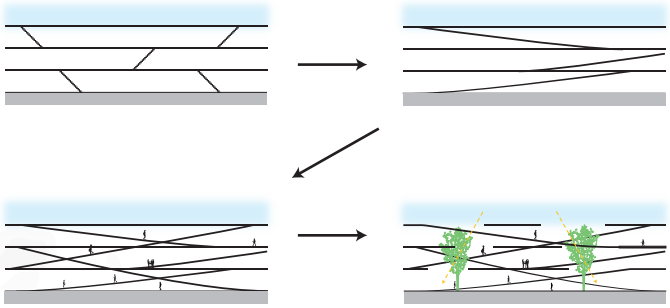

図 4. 断面ダイアグラム 1

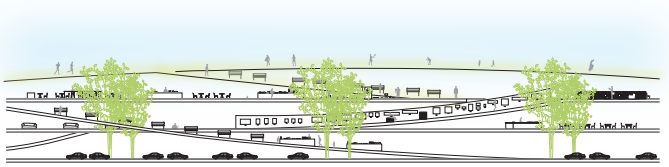

図 5. 断面ダイアグラム 2

4. 今後の桂浜公園の展望

この建物ができたことによって人の動線が広がり、公園全体につながりが生まれる。今までは桂浜公園と龍馬記念館は車での行き来が多かったのだが、歴史の石碑や自然を見ながら歩いて公園全体を行き来する観光客が今後増えるだろう。

図 6. 設計後桂浜公園配置図